

「福島頑張れ」地元熱く

幕別でパブリックビューイング 未明に120人歓声

【幕別】「よく頑張った」一。福島千里選手（北海道ハイテクAC一帯南商高出）の出身地、幕別町の百年記念ホールで4日午前2時50分から行われたロンドン五輪陸上女子100㍎のパブリックビューイング（応援する会実行委員会主催）には、未明にもかかわらず約120人が集まった。予選敗退の結果にも、来場者からは福島選手をねぎらい、7日午前3時20分（日本時間）から行われる200㍎競技に期待する声が聞かれた。



応援グッズを手に声援を送る来場者（4日午前3時40分ごろ、折原徹也撮影）

同ホールでは講堂に200㍎のスクリーンを設置。約100脚の椅子が用意されたが座り切れず、立ち見も出た。午前3時5分に女子100㍎のテレビ中継が始まると、来場者は配布された日の丸の小旗や「がんばれ、福島」と書かれた特製扇子などの応援グッズを手に解説に聞き入った。福島選手が出場する5組目が近づくとつれてざわつきも収まり、会場は緊張ムード。同3時35分ごろ、福島選手が画面に映し出されると、来場者は一斉に小旗を振りながら「おー」と声援を送った。スタートの号砲と同時に「よしっ」「いけっ」と大きな歓声上がり、会場の熱気は最高潮に。結果は自己ベストに届かない11秒41（組5位）だったが、福島選手の「200㍎に向け、やり直せるチャンスはある。しっかりとにしていきたい」とのコメントを受け、来場者から温かい拍手が起こった。

町陸上競技協会の柿崎俊男事務局長（66）は「いつものスタートではなかった」と振

り返った。福島選手のおばで同町内の主婦稲上ひとみさん（56）は「前回（北京五輪）よりも表情は良かった。持ち味が出せたらもっと良かったと思うが、よく頑張った。今度こそ持ち味を発揮できたら」と、200㍎に望みを託した。バンクーバー五輪スピードスケート代表の高木美帆選手（18）は「帯南商高3年にも会場を訪れ、「競技の性質上」タイムという結果は大きい、思い切り走って、納得のいく走りができたらいいと思う。応援しています」と福島選手にエール。岡田和夫町長も「200㍎も頑張ってほしい。応援する」と話していた。（角田悠馬、平田幸嗣）

動画あり
かちもバ（または勝毎電子版で）
「いつものスタートではなかった」と振